



すびっこ
美術館

おおぞら保育園

牧野泉ちゃん



白鳥見学

公園の池で白鳥に餌をあげる絵を描いてくれたのは泉ちゃん(5歳)。生まれて初めて見る白鳥は白くて、とてもきれいだったそうで、「今度はお父さん、お母さんと一緒に見に行きたいなあ」と恥ずかしそうに話してくれました。

ぼくの夢
わたしの夢



夢は…。 “ねじを造る技術者”

照沼小学校6年 ● 齊藤慎之介

僕は、ねじを回すのが大好きです。幼稚園のころ、自分でおもちゃの電池を交換した時に、回したことがきっかけです。ねじの頭にある溝にドライバーをセットして左側に回すと、どんどん緩くなって出てくる動き方がとても面白くて、見ていて楽しくなります。反対に締める時は、きつく締まっていくのが感触で分かり、そんな動きを見ているだけでも気持ちが良いです。

ねじは、いろいろな場所で数え切れないほど使われていますが、そんなねじを見るたびに「回してみたい…」気分になります。締め過ぎてしまったり、きついのに回そうとすると、頭の溝が欠けてしまったり、壊れたりしてしまったりすることがあります。

将来は、頭の溝が簡単には壊れない、丈夫なねじを造ってみたいです。小さなものから大きなものまで立派に造れる技術者を目指したいと思います。

わが家の子育てノート

表紙・小泉有希

わが家は、愛菜(6歳)、颯斗(3歳)、私たち夫婦、そして私の両親の6人家族です。

愛菜は、小さいころからたくさん悩ませられる子でした。生まれてくるときも、陣痛が来てから1日半かかってやっとのことです。生まれてきたのを今でも覚えています。それから8か月で寝返り、ハイハイを始めたのが1歳、歩いたのは1歳7か月の子どものうちに比べるとペースが遅く、うちの子って、成長が遅いのかな?と、少し不安になってしまいうこともありました。幼稚園に入ると、できることもどんどん増えて、とても成長しました。負けず嫌いで友だち思いの、とても優しい子です。

颯斗は、早く私たちに会いたかったのか、私の陣痛のタイミングに合わないほど早いスピードで下りてきて、気がついたらあつという間に生まれていました。とても活発でお姉ちゃんがとても大好きな子です。颯斗は、お姉ちゃんとは対照的で、成長が早く、気づいたら何でもできるようになっていました。



いつでも「ママ、ママ〜!」と甘いん坊な子ですが、今では元気に保育園に通っていて、少しずつお兄さんになってきているのを感じます。

初めての子育て…悩むこともたくさんありましたが、そんなとき、いつも私を助けてくれたのは両親でした。今でも、悩みを聞いてくれたり、子どもたちの送迎を手伝ってくれたり、私たち夫婦の子育てを支えてくれていることにとても感謝しています。

私自身まだまだ未熟な母親で、両親や夫、周りの方々に助けられながら、子どもからはたくさんのお話を学ばせられ、子どもたちと共に、日々成長中です。

この春から愛菜は小学生、颯斗は年少さんになります。これからも、子どもたちには、たくさんのお話をチャレンジして、いろいろな経験をしてほしいと思っています。そして、私自身も、毎日楽しく笑いながら、わが家らしい子育てをしていきたいです。